

朝日カルチャーセンター 芦屋教室

自分らしい最期を

芦屋

日本で認められていない安楽死を、欧米の一部の国や州では合法化している。テレビ番組で、難病を患った日本人女性がスイスで安楽死を遂げたことを報じて以来、こうした最期を望む人や賛同する声が増えているという。

一方で、患者の意思を尊重して延命治療を中止し、人間的らしい死を遂げる尊厳死（自



■尊厳死と安楽死のあいだ

然死)。「尊厳死と安楽死を、誤って認識している人も非常に多い」と長尾和宏・長尾クリニック院長は指摘する。こうした現状が、国内での議論がタブー視されている一因だとも考える。

「尊厳死か安楽死かではなく、問題はその『あいだ』。どこまで許容されて、どこからが犯罪なのか。とにかく議論することが重要」

高度な延命治療が発達した社会で、人生の終わりをどう迎えるか。終末期医療に携わる長尾院長が本音で語る。1月16日(日)13時30分、3850円(会員3300円)。会場は芦屋仏教会館(阪急芦屋川駅から南へ徒歩約7分)。